

令和 5 年 5 月 26 日現在

機関番号：14401

研究種目：若手研究

研究期間：2019～2022

課題番号：19K12922

研究課題名（和文）嗜癮的關係性と家族の「病理」をめぐる臨床哲学的研究

研究課題名（英文）A Clinical-Philosophical Research on Addictive Relationship and Family "Pathology"

研究代表者

小西 真理子 (Konishi, Mariko)

大阪大学・大学院人文学研究科（人文学専攻、芸術学専攻、日本学専攻）・准教授

研究者番号：30793103

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 3,000,000円

研究成果の概要（和文）：本研究では、これまでのインタビュー調査の蓄積を生かしながら、暴力や虐待関係にありながらも、その関係性から逃れようとしなかったり、相手に愛着を抱いたりしている人に焦点を当てて文献研究を進めてきた。まず、なぜそのようなことが生じているとされるのか、その通説的な見解を照査し、その通説と一致しない語りに着目した。そして、親密な関係に生じる暴力問題の当事者（当人）と、その人たちを救済しようとする第三者のあいだに生じる（ことがある）衝突について問題提起し、その解決のために必要な視点について明らかにした。

研究成果の学術的意義や社会的意義

虐待者に愛着を示す当事者たちが暴力関係にとどまることについて、多くの研究は、被害者を加害者から分離したり、被害者の加害者に対する（歪んだ、洗脳された）「愛情」の認知を修正したりする方法によって解決してきた。しかし、本研究では暴力問題における分離とは異なる解決策（修復的正義プログラムのDV関係への応用）や、被虐待者が虐待者に抱く愛情を否定しない形で聴き取る必要性を提案するものである。本研究が臨床現場に通達されることにより、支援者に新たな視点を提供し、現支援や回復論に適合しない一部の当事者に対する別の回答を提示することができる。そのための第一段階として、本研究の成果を学術書として出版する。

研究成果の概要（英文）：I have examined the people who are in violent or abusive relationships but do not attempt to escape from it because they love the abusers. First, I reexamine the generally accepted theories of why is they do not escape from abusive relationship, focusing on narratives that are overlooked by them. Then, I have tried to suggest the perspective that could solve the conflict between the supporters and abused people.

研究分野：臨床哲学

キーワード：暴力 虐待 家族 関係性

### 1. 研究開始当初の背景

本研究は、現代家族における「病理」概念について批判的に検討することで、嗜癡的關係性にある者が分離を望まないような場合においても、その生を肯定するためには何が求められているのかを明らかにすることを目的とする。そのために、まず異性愛・近代家族を肯定するフェミニズム理論が前提としている現代の「正常」な家族像がいかなるものであるかを検討し、この観点からケア論、正義論、家族論を位置づける。次に、嗜癡には当事者が感じずにはいられない肯定性が内在することを考慮したうえで、家族における嗜癡的「病理」に介入する正当性と介入されない権利について検討する。最後に、嗜癡的關係性を受容・考慮するケアの倫理を確立し、それがいかに諸問題の現場・実践に応用可能かを検討する。

### 2. 研究の目的

- (1)現代の「正統」な家族に生じている「病理」がいかなるものであるかを解明する。
- (2)嗜癡に内在する肯定性を考慮したうえで、家族における嗜癡的「病理」に介入する正当性と、介入されない権利について検討する。
- (3)嗜癡的關係性を受容・考慮するケアの倫理を確立し、「現場」への応用を検討する。

### 3. 研究の方法

本研究は文献研究に加えて、嗜癡的諸問題と関連する支援施設やプログラムにおけるフィールドワーク・インタビュー調査を行う。つまり、「現場」の人びとの声に耳を傾けながら、哲学的知見および学際的視点をもって諸問題に取り組む臨床哲学的手法をとる。

### 4. 研究成果

以下、本研究における主要な成果を示す。

#### (1)暴力・虐待関係から逃げようとしぬ当事者についての研究

暴力・虐待関係から逃げようとしぬ当事者が、なぜその関係から逃げようとしぬ(しかも愛着まで抱いている)のか、その通説的な見解(加害者の暴力によって無力化しているから、加害者の「愛情」に固執しているから、加害者に支配/洗脳されているから、加害者に依存しているから)を整理した(ここでは、経済的理由や世間の家族規範など、仕方がなく相手の元に留まる当事者ではなく、まるで自ら進んで留まろうとしている、場合によっては加害者をかばうような当事者に着目している)。その上で、そのような通説に内包しきれぬ当事者の語り(離れたくない、私は相手のことをよく知っている、依存によって生きのびられる、私はマゾヒストである)の存在を提示し、それらの声に通説によって曲解されない必要性を強調した。

その上で、第一に、通説に回収しきれぬ当事者たちの声に応答すべく、DV問題における分離とは異なる解決策として、修復的正義プログラムのDV関係への応用の提案をした。このプログラムはアメリカの一部の州で適用されており、その成果を紹介し、日米の比較をしたうえで、日本への導入可能性を提起した。

第二に、現時点では完全に暴力を取り除くことが困難な状況下に置かれている人もいることを指摘し、攻撃性をともなう自閉症児の息子の母親であるトルーディが、その人生を賭けて訴えた問題を明らかにすることで、暴力的な存在、そして、そのような存在と共に生きようとしている人たちが、社会的に排除されている現実を示唆した。また、トルーディと息子の関係をDVだと指摘しながらも、両者のあいだに愛の関係があったことを主張したトルーディの友人の発言にも焦点を当てた。

第三に、依存によって生きのびられる人びとの実態を詳細に検討することで、そこには単に「生きのびられた」ことに回収仕切れないような肯定性があることを主張し、同時に、昨今の「生きのびる」という視座が覆い隠してしまうような死(者)の存在について言及した。

第四章に、親密な関係に生じる暴力関係に第三者がいかに応じることができるのかを検討したい。ドラマ『ラスト・フレンズ』を読み解くことで身近な他者や近年の公的支援が当人に応じることの可能性と限界について検討すると共に、「自傷他害」をめぐるパターンリズムの暴力性について論じることで、親密な関係に生じる暴力問題における当人と第三者の倫理について考察した。

以上の研究成果を次年度取りまとめ、出版する予定である。

#### (2)世代間連鎖という言葉に対する問題提起

世代間連鎖とは、親の問題を次世代の子どもが引き継ぐことの総称であり、その連鎖の理由は、第一に血縁(遺伝)第二に、養育(環境)にあるとされてきた。本研究では、後者と関係する

見解、すなわち、虐待された人は、自分が親にされた虐待を自分の子どもにもしてしまうという言説に焦点を当てるものである。この言説は、1960年代のアメリカで児童虐待が社会問題となった時期にすでに強調されはじめていたことであり、その根拠は精神分析理論に見いだされていた。その言説の影響を受けた心理学（およびポピュラー心理学）が日本に輸入されることで、現在も幅広く世代間連鎖の危険は唱えられており、虐待致死事件が起きてその親に被虐待歴がある場合はそのことが連鎖の証明のような形で報道されることもある。しかし、このような言説は、現在虐待されている人や、被虐待経験のある人が、自らを加害者予備軍と認識せざるを得ないような効果を生む。こうした問題点を指摘し、その言説に対するアンチテーゼを唱えると同時に、その言説に絡め取られた人びとが生きるあり方を（単に「かわいそうな人」として）否定しない論点を提示する必要があるという見解のもと、2本の論文を執筆した。1本は、私が共編著者をつとめる『狂気な倫理：「愚か」で「不可解」で「無価値」な生の肯定』（小西真理子・河原梓水共編著、晃洋書房、2022年）に収録された論文『『不幸』の再生産：世代間連鎖という言説の闇』、もう1本は、『現代思想』vol.50(9)に収録された論文「私は被害者ではない：問題含みな親の『加害性』への反応をめぐって」である。

その他にも毒親概念の有用性を示す論文や、SMをめぐるとらウマ論の研究について、ギャンブル依存症の支援施設や被虐待経験者のインタビュー調査、臨床哲学とケアの倫理に関する研究などを進めてきた。その一部は論文や報告書として公表している。ケアの倫理に関する研究成果は、現在書籍化を目指しまとめている途上である。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計8件（うち査読付論文 0件/うち国際共著 0件/うちオープンアクセス 3件）

1. 著者名 小西真理子	4. 巻 50(9)
2. 論文標題 私は被害者ではない：問題含みな親の「加害性」への反応をめぐって	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 現代思想	6. 最初と最後の頁 144-153
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 小西真理子	4. 巻 4
2. 論文標題 毒親概念の倫理：自らをアダルトチルドレンと「認める」ことの困難性に着目して	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 臨床哲学ニュースレター	6. 最初と最後の頁 126-180
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.18910/86374	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 小西真理子	4. 巻 3
2. 論文標題 はじまりの場所：臨床哲学との出会いをつうじて	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 臨床哲学ニュースレター	6. 最初と最後の頁 118-147
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.18910/79248	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 小西真理子	4. 巻 3
2. 論文標題 支配する技術・欲望される支配：SMをめぐるトラウマ研究に向けての試論	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 臨床哲学ニュースレター	6. 最初と最後の頁 49-56
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.18910/79259	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 小西真理子	4. 巻 47
2. 論文標題 親をかばう子どもたち：虐待経験者の語りを聴く	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 現代思想	6. 最初と最後の頁 183-189
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 小西真理子	4. 巻 35
2. 論文標題 「ケアする責任」と「ケアしない責任」：現代家族の「依存」に着目して（男女共同参画 若手研究者支援ワークショップ報告 「家族におけるケアと依存」）	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 現象学年報	6. 最初と最後の頁 23-25
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 小西真理子	4. 巻 6
2. 論文標題 「規範の外の生」と 倫理 安井絢子さんによる『共依存の倫理』の書評への応答	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 倫理学論究	6. 最初と最後の頁 19-32
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 小西真理子	4. 巻 665
2. 論文標題 攻撃性をともなう依存者へのケア：自閉症児の母親トルーディ事例の検討	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 立命館文学	6. 最初と最後の頁 0-0
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計10件（うち招待講演 8件 / うち国際学会 5件）

1. 発表者名 小西真理子
2. 発表標題 ケアの倫理と共感を持たぬ者
3. 学会等名 ケアの倫理と人文学（名古屋大学大学院人文学研究科附属町域文化社会センター / 名古屋大学高等教育院）（招待講演）（国際学会）
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 小西真理子
2. 発表標題 “Psychologically Pathological” Voices Missed by In a Different Voice: Reevaluating the Conventional Self in Carol Gilligan’s Ethic of Care
3. 学会等名 Emotions, Actions, Meditations and Visions in Korean Philosophy（招待講演）（国際学会）
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 小西真理子
2. 発表標題 「臨床」哲学講義とケアの倫理
3. 学会等名 第3回東アジア臨床哲学会議（招待講演）（国際学会）
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 小西真理子
2. 発表標題 『共依存の倫理』第6章「共依存と回復論」第2節「回復論の倫理観」+まとめ
3. 学会等名 第3回 ケア を考える会（京都・岡山）合同オンライン会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 小西真理子
2. 発表標題 女性サディストの技術とフェミニストなマゾヒスト
3. 学会等名 第2回臨床哲学フォーラム「BDSMをめぐる生の営み：ケアとは何か？」
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 小西真理子
2. 発表標題 【基調講演】共依存の考え方
3. 学会等名 パチンコ・パチスロに依存する人の多様な背景と支援について（NPO法人ワンダーポート）（招待講演）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 小西真理子
2. 発表標題 世代間連鎖をめぐる言説と語り
3. 学会等名 第2回東アジア臨床哲学会議：現象学・人文臨床学・倫理学（Research Center for Chinese Cultural Subjectivity in Taiwan）（招待講演）（国際学会）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 小西真理子
2. 発表標題 共依存者に「寄り添う」ことはできるのか？：当事者の多様性・分離を望まない当事者について考える
3. 学会等名 ピーユーフォーラムVI：共依存関係における意思決定支援の在り方（NPO法人岡山意思決定支援センターピーユー）（招待講演）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 小西真理子
2. 発表標題 ケア関係のなかの暴力性
3. 学会等名 The Korean Philosophical Society's Fall Conference 2019: Korean Society - What is the Problem now? (The Korean Philosophical Society) (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 小西真理子
2. 発表標題 ケア・BDSM・親密性：BDSMにおける規範をめぐって
3. 学会等名 2019年度 SOGI研究会 公開研究会 (立命館大学先端総合学術研究科院生プロジェクト) (招待講演)
4. 発表年 2020年

〔図書〕 計1件

1. 著者名 小西 真理子、河原 梓水 (共編著)	4. 発行年 2022年
2. 出版社 晃洋書房	5. 総ページ数 310
3. 書名 狂気な倫理	

〔産業財産権〕

〔その他〕

大阪大学文学部倫理学 / 大学院文学研究科臨床哲学ブログ <a href="http://clphandai.blogspot.com/">http://clphandai.blogspot.com/</a>
---



6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
--	---------------------------	-----------------------	----

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------